

急性呼吸器感染症(ARI)に関する検査状況 (2025年8月から2026年7月)

2025年4月7日から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)が感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。ARIとは、鼻炎・咽頭炎・気管支炎・肺炎など、上気道および下気道に急性の炎症を引き起こす病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱(アデノウイルス)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。今回2025年8月から2026年7月までにARIサーベイランスとして横浜市内のARI病原体定点(9医療機関)から検体が提出され、横浜市衛生研究所で検査を実施した検体の病原体検出状況をまとめました。

【病原体定点ウイルス調査・ARIサーベイランス】

ARIサーベイランスにおける病原体検査はインフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス、ライノウイルスまたはエンテロウイルスを実施しています。ARIサーベイランス病原体定点ウイルス調査(2025年第32週～2026年第31週)では1,380件を検査し、インフルエンザウイルス367件(26.6%)、新型コロナウイルス134件(9.7%)、RSウイルス54件(3.9%)、パラインフルエンザウイルス80件(5.8%)、ヒトメタニューモウイルス72件(5.2%)、アデノウイルス51件(3.7%)、ライノウイルス/エンテロウイルス311件(22.5%)の計1,069件(77.5%)が検出されました(図1)。

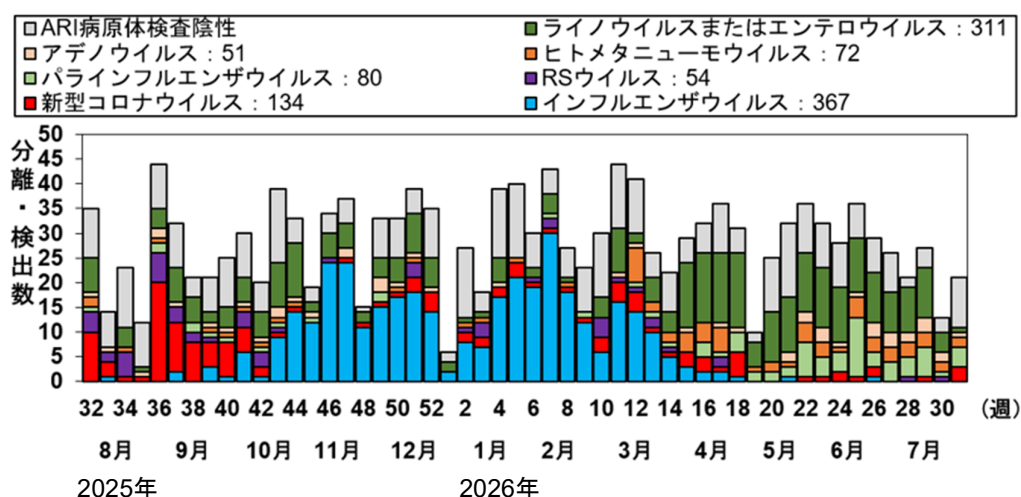


図1 ARI病原体定点におけるウイルス検出状況

【ARI検体のウイルス陽性率】

市内全体の感染症の流行状況を把握するために全年齢層を対象とした週ごとのインフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、RSウイルスの陽性率を図2に示しました。

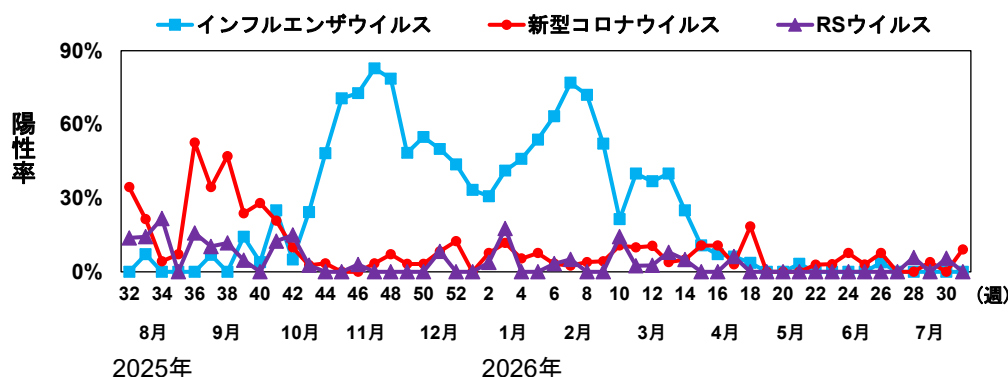


図2 インフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、RSウイルス陽性率の推移

2025年8月から9月まで新型コロナウイルスは毎週検出され、第36週には陽性率50%を超えました。一方で、2025年10月以降インフルエンザウイルスの陽性率は上昇し、2026年4月まで継続して検出されました。

【年齢層別ウイルス検出数及び陽性率】

4つの年齢層（1歳未満、1歳以上6歳未満、6歳以上20歳未満、20歳以上）に分類して各ウイルスの検出数を示しました(図3)。

検出数の多いウイルスについてさらに詳しく示しました(図4)。

インフルエンザウイルス、ライノウイルスまたはエンテロウイルス、新型コロナウイルスが多く検出されました。特にインフルエンザウイルスは1歳以上6歳未満の年齢層で50%を超える検出率が5か月継続しました。調査期間中、ライノウイルスまたはエンテロウイルスは、継続して検出されました。

6歳以上20歳未満の年齢層では10月に、1歳以上6歳未満及び20歳以上の年齢層では11月にインフルエンザウイルスの陽性率が上昇しました。20歳以上の年齢層では8月から9月まで新型コロナウイルスの検出が多い状況でした。1歳以上6歳未満、6歳以上20歳未満の年齢層では2026年4月以降ライノウイルスまたはエンテロウイルスの陽性率が増加しました。

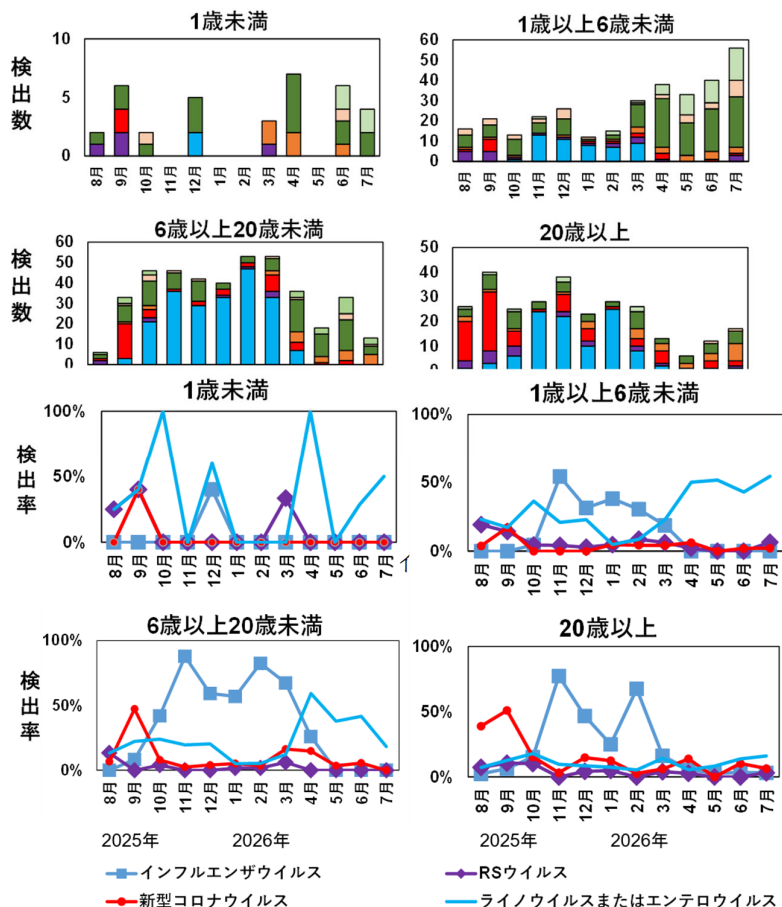


図4 年齢層別ウイルス陽性率(%)の推移

注1 搬入週ではなく検体採取週で集計しています。

注2 集計時点における検出数であるため、今後修正される場合があります。

注3 1つの検体から複数の病原体が検出された場合は、検出された全ての病原体を計上しています。

【 検査研究課 微生物(ウイルス医動物)担当 】